

文部科学省における 復興大臣指示を踏まえた対応状況について

平成29年2月24日



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

復興大臣指示を踏まえた対応状況について

【復興大臣指示事項(抜粋)】(2016.10.7)

(指示事項1) 正確で効果的な情報発信、輸入規制解除に向けた取り組みの強化

→ 在外公館や国際会議の場等を活用し、諸外国・地域の輸入規制解除に向けた働きかけの徹底

(指示事項2) 被災地産品の販路拡大の促進

→ 「チームふくしまプライド。」の職員等への周知

(指示事項3) 教育旅行ほか国内外からの東北への観光誘客の一層の促進

< 指示事項1、3への対応 >

【スポーツ・文化・ワールド・フォーラム(2016.10.20～10.22 会場:東京)での対応】

・ 文部科学大臣からの発言

IOCバツハ会長、各国スポーツ大臣(35か国)が出席する夕食会で東北産の食材が使われていることをアピールするとともに、復興の状況について発言

・ パンフレット(5種類)の配布

① 復興庁作成パンフレット(2種類:200部×2)

② 福島県等作成パンフレット(3種類:75部×3)



※トラベルガイド等のパンフレットを配布

→ 他のパンフレットと共に各国スポーツ大臣等の要人に配布し、会場にも配置。

< 指示事項2への対応 >

【「チームふくしまプライド。」の周知】

- ・ 省内全職員および所管の独立行政法人および国立大学法人等に対して、メールより周知と加入の慫慂
- ・ あわせて省内幹部出席の会議においても周知

< 指示事項3への対応 >

【教育関係団体に対する働きかけ】

- ・ 全国の教育関係者等が集まる会議等で、福島県への修学旅行の実施に係る説明・要請や情報提供を実施。

※これらの他、原子力発電所事故の避難者である児童生徒に対するいじめについて教育委員会に指導・助言を行うとともに、被災児童生徒を受け入れる学校に改めて対応を求める通知を发出。

(参考)スポーツ・文化・ワールド・フォーラムの概要

1. 目的

- スポーツ・文化を通じた「知徳体の向上」、「人的交流の促進」、「新しい経済・文化の創発」への新たな可能性と必要な施策について、日本を新しいパラダイムの事例としてアジア・世界の人々が体感・議論し、誰もが直面している困難を乗り越える原動力へと変える、始めの一步を共に踏み出す。

2. 開催趣旨

- ラグビーワールドカップ2019、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会、関西ワールドマスターズゲームズ2021等に向けて、観光とも連動させつつ、スポーツ、文化、ビジネスによる国際貢献や有形・無形のレガシー等について議論、情報発信し、オリンピック・パラリンピック・ムーブメントを国際的に高めるためのキックオフイベントとしての国際会議を、2016年リオ大会直後の秋に、京都と東京で開催。

3. 主催

- 文部科学省を中心に、京都府・京都市、関係府省、経済団体、地方公共団体等の協力を得ながら、日本政府が主催。世界経済フォーラムとも連携。

4. 参加者

- 国内外のスポーツや文化を担当する大臣や国際的な振興団体のトップ
- グローバル企業の経営トップや世界経済フォーラムYGL、著名研究者および国内外主要経済メディア等

5. 開催時期・場所

2016年10月19日（水）～20日（木）：京都（ロームシアター京都等）
10月20日（木）～22日（土）：東京（六本木ヒルズ等）

6. 会議内容・ テーマ（案）

- （1）東京プレナリー・基調講演
バッハ・I O C会長、クレイブン・I P C会長、ボームント・WR会長、シュワブ・世界経済フォーラム会長等
- （2）国際イベント（例）
 - ①スポーツ・フォー・トゥモロー（スポーツ大臣会合の開催）
 - ②2019年ラグビーワールドカップ（ラグビーワールドカップ関連会議の開催）
 - ③障害者とスポーツ・文化（パラリンピック、障害者の芸術活動等に係る国際シンポジウムの開催）
 - ④2020年に向けた文化プログラム（国際シンポジウムの開催）等
- （3）官民ワークショップ
世界経済フォーラムや民間団体等と連携して、2020年前後で実現したい目標に向けて官民で課題認識を共有し、連携して推進・実施していくべき取組を議論し、施策案を提言

7. 文化イベント・ 公式夕食会

- 歌舞伎、能、音楽、舞踊等のパフォーマンス（京都では世界遺産である二条城を活用）
- 六本木アートナイト等との連携、オリンピック・パラリンピアン等のアスリートが参加したイベント
- 公式夕食会